

函館工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地理総合	
科目基礎情報						
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	社会基盤工学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	「高等学校 新地理総合」(帝国書院)、「新詳高等地図」(帝国書院)、「高等学校 新地理総合ノート」(帝国書院)					
担当教員	松岡 由佳					
到達目標						
1. 地球の姿や地図、国家について、地図やデータを用いた考察ができる。 2. 世界の気候や言語・宗教と人々の生活について、地図やデータを用いた考察ができる。 3. 世界の産業と人々の生活について、地図やデータを用いた考察ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地球の姿や地図、国家の領域に関する発展的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて多面的な考察ができる。		地球の姿や地図、国家の領域に関する基礎的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて考察できる。		地球の姿や地図、国家の領域に関する学習項目の理解が不十分である。	
評価項目2	世界の気候や言語・宗教と人々の生活に関する発展的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて多面的な考察ができる。		世界の気候や言語・宗教と人々の生活に関する基礎的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて考察できる。		世界の気候や言語・宗教と人々の生活に関する学習項目の理解が不十分である。	
評価項目3	世界の産業と人々の生活に関する発展的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて多面的な考察ができる。		世界の産業と人々の生活に関する基礎的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて考察できる。		世界の産業と人々の生活に関する学習項目の理解が不十分である。	
学科の到達目標項目との関係						
函館高専教育目標 D						
教育方法等						
概要	現代世界は、グローバル化によって国々の結びつきが強まるとともに、それぞれの国や地域は様々な課題に直面している。この授業では、そうした現代世界を多面的に理解するための、地理的な知識や技能を養うことを目指す。地図やデータを用いて考え、現代世界の諸課題の解決に向けて行動できるようになる。					
授業の進め方・方法	主にパワーポイントを用いて授業を進める。授業時間外の課題として、予習もしくは復習のための課題に取り組んでもらう。知識の習得にとどまらず、授業内容に関連する事柄について自分なりに考えることを大切にしたい。					
注意点	◎教科書等の忘れ物、授業中の居眠り、携帯電話の使用等は減点の対象となるので、十分に注意すること。 ◎課題の提出遅れや未提出は減点の対象となるので、必ず提出期限を守ること。 ◎インターネットからのコピーや他人のレポートの写しと判断した提出物は、すべて0点とするので、十分に注意すること。 ※授業内課題やグループワークを実施することがある。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によって、授業内容の一部を変更する場合がある。 ※本科目は学修単位(2単位)の授業であるため、履修時間は授業時間30時間と授業時間以外の学修(予習・復習、課題・テスト等のための学修)を併せて90時間である。自学自習の成果は、課題によって評価する。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 1. 地球の姿	・地理総合での学習内容・学習方法を理解する。 ・地球の姿を理解できる。		
		2週	2. 緯度・経度と私たちの生活	・緯度・経度と生活との関わりを理解できる。		
		3週	3. 時差と私たちの生活	・時差と生活との関わりを理解できる。		
		4週	4. 地図の歴史	・地図の歴史を理解できる。		
		5週	5. 球体の地球と平面の地図	・様々な図法の特徴を理解できる。		
		6週	6. 世界の気候と人々の生活	・気候や植生と人々の生活との関わりを理解できる。		
		7週	7. 自然環境と防災	・自然環境と災害・防災との関わりを理解できる。		
		8週	8. 中間試験			
	4thQ	9週	9. 地球環境問題	・多様な環境問題とその背景を理解できる。		
		10週	10. グローバル化する世界	・現代の国々を結びつける様々な要素を理解できる。		
		11週	11. 産業のグローバル化①	・世界の国や地域の事例をもとに、産業のグローバル化を理解できる。		
		12週	12. 産業のグローバル化②	・世界の国や地域の事例をもとに、産業のグローバル化を理解できる。		
		13週	13. 世界の人口と都市・居住問題	・世界の人口や都市・居住をめぐる問題を理解できる。		
		14週	14. 世界の言語・宗教と人々の生活	・世界の国や地域の事例をもとに、言語や宗教と人々の生活との関わりを理解できる。		
		15週	定期試験			
		16週	試験答案返却・解答解説	・間違った箇所を理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	

基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。				3		

評価割合

	定期試験	レポート	ノート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	100
基礎的能力	60	10	10	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	10	0	0	0	20